



富士通13事業所にて、目標より1年早く 廃棄物ゼロエミッションを達成しました。

富士通グループでは、3R(Reduce:発生抑制、Reuse:再利用、Recycle:再資源化)の基本方針のもと、事業活動により発生するすべての廃棄物を対象に、ゼロエミッションの早期実現へ向けて積極的な取り組みを続けてきました。従業員一人ひとりが主体的に活動した結果、目標を1年前倒し、2003年3月末までに国内13事業所にて生活系(食堂生ごみや浄化槽汚泥)を含めたすべての廃棄物ゼロエミッションを達成しました。また、国内のグループ会社についても、2002年度2事業所にて達成。グループ全事業所のゼロエミッション化が着実に進んでいます。

富士通グループ: 富士通(工場・事業所)13事業所、国内関係会社(製造)28社、海外関係会社(製造)19社

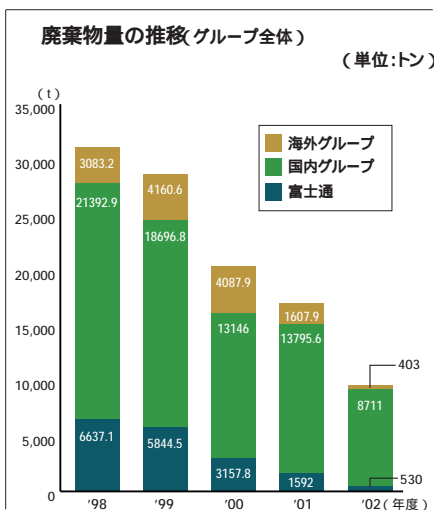
富士通13事業所内訳: 小山工場、那須工場、長野工場、沼津工場、熊谷工場、南多摩工場、明石工場、三重工場、会津若松工場、岩手工場、川崎工場、あきる野テクノロジーセンター、富士通研究所(厚木地区)

廃棄物削減実績

グループ全体では2002年度廃棄物量は9,644トンで、98年度比69.0%削減。また富士通単独では2002年度の廃棄物量は530トンで、前年度比66.7%削減となり、廃棄物削減活動は順調に推移しています。

2002年度分析

2002年度は、国内グループ会社にて、昨年度より大幅に廃棄物量が削減されています。その要因については、国内グループ会社2社(山形富士通、富士通テン)でのゼロエミッション達成や、グループ各社での有効利用先情報の共有化などが上げられます。



ゼロエミッションへの取り組み

2003年3月末までに富士通単独の国内13事業所で目標を達成しました。また、すでに達成している事業所については、廃棄物総発生量(有効利用量:19,254トン)の削減を目標に達成年度を基準として3年間で5%の削減をはかります。なお、2002年度の廃棄物総排出量(金属などの有価物を含めた総排出量)は、25,032トンとなります。

富士通のゼロエミッションの特長

社内資源循環の推進

各事業所から排出された廃棄物を社内資源として活用する資源循環を最優先に考えます。

3Rの高度化

リサイクルからリユース、リユースからリデュースといった環境負荷低減のさらなる向上をめざします。

廃棄物グリーン物流システム構築による環境負荷低減

廃棄物の収集運搬において、近隣する事業所の同種類の廃棄物をまとめて回収する仕組みをつくり、運搬車両を減らすことでCO₂削減をはかります。

富士通のゼロエミッションの定義: すべての廃棄物の有効利用100%化により、埋め立て単純焼却ゼロ。

廃棄物の有効利用法(代表例)

3Rの高度化

リデュース(発生抑制)
製造プロセスの見直しによる、薬品使用量などの削減など

リユース(再利用)
ICTレイの再利用化
硫酸の再利用化など

マテリアルリサイクル
廃水処理汚泥のセメント原料化
廃プラスチック類の原料化
廃油、廃溶剤などの再生利用
食堂生ごみ、浄化槽汚泥の肥料化など

サーマルリサイクル
再生不可能な紙くずや
廃プラスチック類の廃熱利用など

ゼロエミッション達成

ゼロエミッション取り組み事例

浄化槽汚泥より生成した肥料の “トリプル資源循環システム”を 構築(富士通沼津工場)

富士通沼津工場では、浄化槽汚泥より生成した肥料について、工場、地元農園、県外の大規模農園などでの広域活用を実現する「トリプル資源循環システム」を構築しました。浄化槽汚泥から生成する肥料は、これまでは工場内でのみの使用にとどまっていた。沼津工場では、社内実験農園を活用した「栽培実験」や「発酵実験」などを繰り返すことにより、肥料としての品質を向上。電機業界で初めて農林水産省より普通肥料(汚泥発酵肥料)としての認定を受け、広域での活用が実現したものです。

廃シリコンウエハーの 太陽電池向けリサイクルに成功

LSIなどの生産過程において発生する廃シリコンウエハーを太陽電池用素材としてリサイクルする技術を、タク・マテリアル(株)、東芝(株)と共同で開発。海外の太陽電池メーカーへの提供を開始しています。この技術は、廃シリコンウエハーの表面に形成された各種の膜を除去することで、太陽電池用単結晶シリコンウエハーとして再利用するものです。太陽電池市場は需要拡大が期待されており、半導体用に製造された高純度かつ高精度なシリコンウエハーの特性を活かしたリサイクル方法として高く評価されています。この技術開発は、財団法人クリーンジャパンセンター会長賞を受賞しました。



受賞式

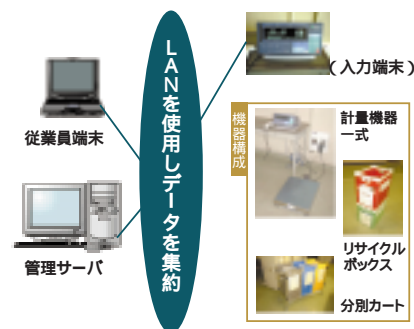
トリプル資源循環システムの3つの形態

- 構内循環 沼津工場内農園で同肥料を活用して野菜を生産し、従業員へ提供します。
- 地域循環 同肥料の提供を受けて地元農園が育てた「苗」を沼津工場が購入し、工場内農園で野菜として育て、従業員へ提供します。
- 社会循環 県外の大規模農園に同肥料を提供し、育てられた「野菜」が一般の市場に向けて供給されます。



グループ会社の製造部門で 初のゼロエミッション達成 (山形富士通)

山形富士通では、2002年8月に廃棄物ゼロを実現。維持検証期間を経て、2003年2月にゼロエミッション達成を宣言しました。光磁気ディスク製造工程で発生する汚泥のセメント化、廃プラスチック類の燃料化、社内イントラネットによる部門ごとの排出・廃棄物量の計量システムの運用など、全社が一体となった取り組みが実ったものです。グループ企業の製造部門でのゼロエミッション達成は初めて。今後はさらに3R推進に取り組みます。



国内研究機関初 全廃棄物のゼロエミッション達成 (富士通研究所厚木地区)

富士通研究所は、厚木地区において廃棄物品類の再資源化を実現。国内の研究機関としては初の全廃棄物のゼロエミッションを達成しました。研究施設の実験過程で発生する廃棄品類は、これまで専門業者による埋立処理を行ってきました。今回、独自の化学物質管理システムを活用するとともに、鉄、セメントの原料へのリサイクルが可能となる新しい処理手法を採用して再資源化に成功したものです。今後はグループ全体への展開を進めていきます。

オフィス家具の 社内外でのリユース活動

本社部門移転に伴い、レイアウトや寸法の制限により使用できないオフィス家具が発生。他事業所やグループ企業内でリユースするしくみをつくりました。希望のないオフィス家具は専門業者が引き取り、オークションに出品してリユースされています。

2003年度 主な実施計画

- ・廃棄物ゼロエミッションを維持しながら、3R活動のさらなる高度化を実施します。また、廃棄物の収集運搬におけるCO₂排出削減のために、近隣事業所の同種類の廃棄物の一括した回収や鉄道輸送への切り換えなどにより、車両の削減を行い、環境負荷低減をはかっていきます。